

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、国際的な広い視野と高い倫理観を持ち、なおかつ次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（健康・スポーツ学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者を育成するための、最新のスポーツテクノロジー・医科学的理論・指導理論を踏まえた、適切で正しい実践・指導および管理法を求め、科学的・専門的に学ぶことができます。</p> <p>本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で、教育課程を編成します。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>本学科は、「Sports for All の時代をリードできる人」を養成するという教育目的を持っています。したがって、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする強い意欲を持ち、次のような現場において活躍・貢献しようとする学生の入学を求めます。</p> <p>①教育および生涯学習における運動指導現場において、健康・スポーツ教育の充実に貢献しようとする者 ②競技スポーツにおけるスポーツ指導・サポート現場において、優れたコーチングとトレーニング指導によって競技力向上に貢献しようとする者 ③地方自治体や企業・民間のスポーツ施設における施設・プログラム管理現場、医療・福祉施設などにおける運動・フィットネス指導現場において、スポーツ・運動・身体活動を通じた健康支援に貢献しようとする者</p>
1. 知識・理解	1-1	健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。	<p>健康・スポーツに関わる実践者・指導者および管理者に必要な基礎理論と技術を講義・演習科目で学び、それに基づく技能と演習を学内実習科目で磨き、最終的には学外の現場実習科目で応用するという段階的・発展的な学習ができる科目配置を行っています。また、健康・スポーツに関する知識と技能を体系的に学修するために、専門教育科目に「スポーツ教育領域」「健康スポーツ・ヘルスケア領域」「卒業実践研究領域」の3つの領域を設定します。</p>	<p>＜入学時までに身につけてほしい学力・能力＞</p> <p>本学科は、競技力の向上や健康で豊かな社会の構築に関わる幅広い指導者養成のため、健康・スポーツを科学的・専門的に探求する多様な学修を展開しています。そこで主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学時までに、次のような学力や能力、スポーツの実践力を研ぎ、入学後の学修に臨むことを求めます。</p>
	1-2	健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。	<p>「スポーツ教育領域科目」中学校保健体育科教員を目指す者に必要な、充実した保健体育授業を実践できるための理論と技術を身につけることができます。</p>	
	1-3	健康・スポーツの実践・指導・管理のための適切で正しい方法を理解している。	<p>「健康スポーツ・ヘルスケア領域科目」ヘルスケア関連や健康運動実践指導者を目指す者に必要な、スポーツ、運動、身体活動を通じた健康支援の理論と技術を身につけることができます。</p>	
2. 技能・表現	2-1	健康・スポーツを実践・指導・管理するにあたり、基本的・専門的スキルを有している。	<p>「卒業実践研究領域科目」では、教職、コーチング、キッズ、高齢者・障がい者、ヘルスケアを対象にした5分野のいずれかの実践的な経験を積むことにより、健康・スポーツ科学を主体的に学ぶことができます。</p>	<p>1) 知識・技能および思考力・判断力・表現力 ①国語や英語などで学ぶ読解力・構成力・論理的表現力と、そこから得られるコミュニケーション力 ②地理歴史や公民などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる社会を読み解く力 ③数学や理科などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる論理的・科学的な思考力</p>
	2-2	知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。	<p>また、学びの方向および卒業後の進路等を意識させるために、1年次後期より、「教職コース」「ヘルスケアコース」の2コースを設けています。各コースにおかれた科目を学ぶことによって、より専門的に、より実践的に、優れた健康・スポーツのリーダーを育成します。</p>	
3. 思考・判断	3-1	実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。	<p>「卒業実践研究領域科目」は、2コースいずれでも履修できます。</p>	<p>2) 主体性を持って多様な人々と協働する力 ①集団活動における主体性、コミュニケーション力、リーダーシップ</p> <p>3) 体育やスポーツ分野における実践力 ①各種スポーツの技術・技能、スポーツの実践力とそれに係る体力、スポーツ実践の経験知</p>
	3-2	指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。	<p>さらに、このような通常学期のカリキュラム以外に、特別学期における学科学プログラムにあっては、教職や各種資格の試験対策講座を開講します。</p>	
	3-3	指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。	<p>本学科では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目において「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、さらに「態度・志向性」の枠組みで示した能力・資質について総括的評価を行います。</p>	
4. 態度・志向性	4-1	学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。		
	4-2	高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。		